国指定史跡

旧奥行臼駅逓所

令和元年５月１日より
一般公開再開

保存修理工事完了。

入館無料

旧国鉄標津線奥行臼駅・旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所も同時公開

開館期間：５月１日から 11 月３日
開館時間：10：00 ～ 16：30
休館日：月曜日（祝日・国民の休日の場合は開館）

旧奥行臼駅逓所公式サイト

国指定史跡
旧奥行臼駅逓所
町指定文化財
旧国鉄奥行臼駅
町指定文化財
旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所

建物内部一般公開

【公開時間】10:00～16:30
※建物内部以外は、公開時間外でもご自由にご覧いただけます。
※村営軌道車両内部は非公開です。

【休館日】
月曜日（祝日・国民の休日と重なる場合は開館）
11月4日～4月30日

【入館料】 無料

旧奥行臼駅逓所（きゅうおくゆきうすえきていしょ）

駅逓所とは、近代の北海道において、交通不便の地に駅舎と人馬等を備えて、物資の逓送や宿泊等に便宜を図るために設置された施設です。明治期以降、北海道では独自の制度として存続し、北海道の開拓と連動して発展を遂げました。

旧奥行臼駅逓所は、駅逓取扱人山崎藤次郎の自宅を駅舎として、明治43年に開設されました。廃止される昭和５年までの間、人馬の継ぎ立てと宿泊、物資の逓送等を行いました。駅逓所廃止後は山卜山崎旅館として使われ、駅逓所時代よりも賑わっていたと伝えられます。

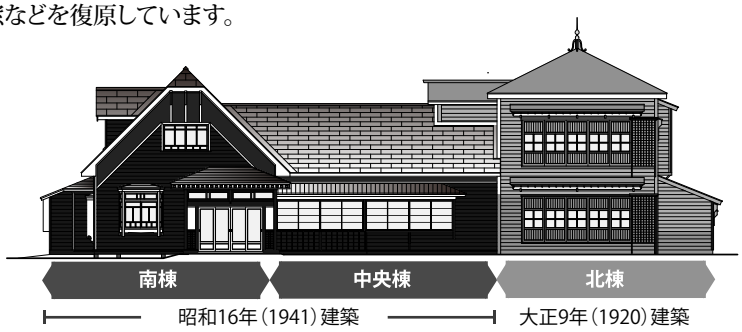
昭和57年に町指定文化財、平成６年に道指定有形文化財、平成23年に国の史跡に指定されました。

旧奥行臼駅逓所主屋保存修理工事について

旧奥行臼駅逓所主屋は、雨漏りや、凍上による床の不陸が顕著だったため、平成 28 年 6 月から平成 30 年 9 月までの 3 年間で根本的な保存修理工事を実施しました。

駅逓所主屋は、駅逓所時代の大正 9 年に建設された寄棟屋根の「北棟」と、昭和 16 年に旅館として使用されていた時期に既存の建物を大きく改造して建設された「中央棟・南棟」から構成されています。

修理工事の方針としては、中央棟・南棟を現状修理としました。北棟については、本史跡の本質的価値を有するため、原則として駅逓時代の姿に復原する方針としました。具体的には、修理前には鉄板葺となっていた北棟屋根を柾葺屋根に復旧し、痕跡や古写真から、棟飾りや１階の戸袋、雨戸、窓などを復原しています。

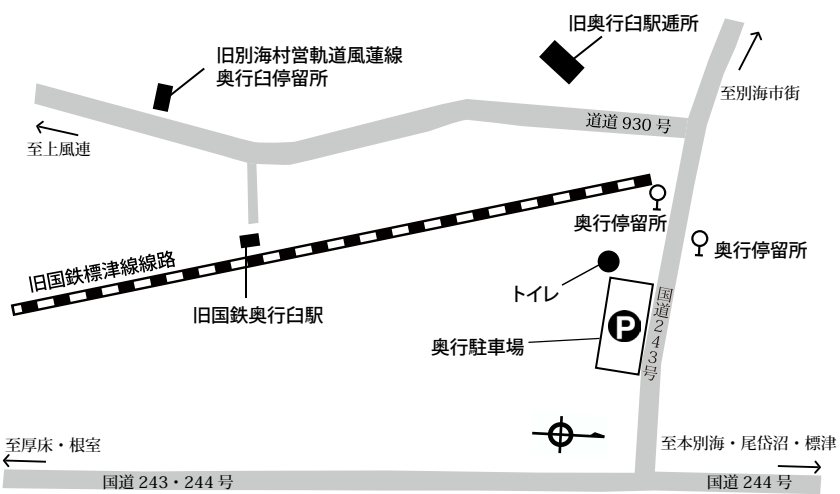


大正末期の奥行臼駅逓所

旧奥行臼駅逓所北棟２階客室

【アクセス】
根室交通バス奥行停留所下車徒歩約2分
別海市街から車で約20分
中標津空港から車で約50分

【お問い合わせ】
別海町郷土資料館
〒086-0201　北海道野付郡別海町別海宮舞町30番地
TEL:0153-75-0802
https://betsukai.jp/kyoiku/culture/bunkazai/kuni_shiseki/okuyuki_ekitei/



旧国鉄奥行臼駅（きゅうこくてつおくゆきうすえき）

昭和８年 12 月 1 日に開通した国鉄標津線の駅で、平成元年 4 月 29 日の廃止までの 55 年間、本町の南の玄関口として重要な役割を果たしました。旧標津線で唯一残る木造駅舎は昭和 8 年当初のもので、ホームや線路とともに当時の姿を残しています。

旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所（きゅうべつかいそんえいきどうふうれんせんおくゆきうすていりゅうじょ）

昭和 38 年 12 月 17 日に奥行臼から上風蓮小学校前まで開通した簡易軌道で、翌昭和 39 年には村役場上風蓮出張所まで延長されました。生乳の輸送が主な目的でしたが、道路網の整備等により昭和 46 年 3 月 31 日に廃止されました。待合室兼職員住宅の他、自走客車、ディーゼル機関車、牛乳運搬車、転車台跡などを保存しています。

このチラシは北方領土隣接地域振興加速化補助金を受けて作成しています。